

「与えられた枠組みを越える学習態度」を引き出す 正課外教育プログラムの開発と実践

河島広幸（山口大学）・林 透（山口大学/非会員）

キーワード：主体的な学び、アクティブ・ラーニング、正課外教育、学生参画

1. 背景

平成 12 年に文部省（当時）より出された「大学における学生生活の充実方策について（報告）－学生の立場に立った大学づくりを目指して－」（以降、廣中レポート）では、より豊かな学生生活を実現する方策について、その前提として昭和 33 年の学徒構成審議会答申にて正課教育に並ぶものとして正課外教育の役割の重要性が強調されていることを示している。また昨年、「21 世紀型スキル（ATC21s）」、あるいは「キーコンピテンシー（OECD）」、「学士力（文科省）」さらに「社会人基礎力（経産省）」といった、文脈に左右されない汎用性の高い能力を大学生が身に付けることが求められており、ますます正課外教育の重要性が注目されている。

2. 正課外教育プログラムの開発と実践の概要

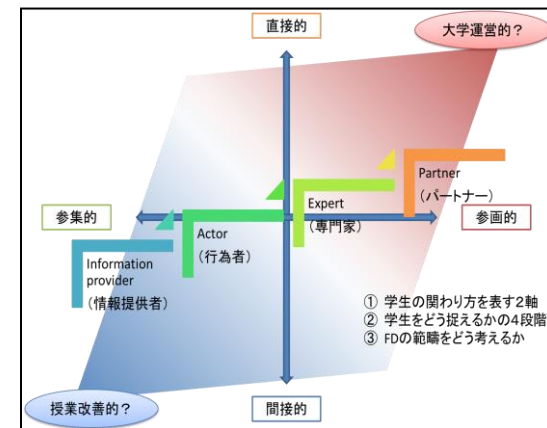
いわゆる汎用的能力を育成するとともに、廣中レポートで示された学生の声をより反映させる大学（大学教育）のあり方を実現するために、正課外教育プログラムを開発し運用を開始した。本正課外教育プログラムのねらいとして、学生は教育プログラムの受動的な対象者ではなく、学生自らが教育プログラムを運用・運営することで、より主体的な学びを引き出し、上記の汎用的能力が涵養されることである。

- 学生スタッフ（学生参画）：11 名（2015 年 6 月現在）
- 教員：2 名（2015 年 6 月現在）
- 正課外教育プログラム：スチューデント・リーダー・プログラム（SLP）
- プログラム時間：120 分、90 分
- 企画会議等：月に数回
- プログラム形態：アクティブ・ラーニングを前提とした、グループワーク、プレゼンテーション、双方向型講義、対話・ディスカッション
- 正課外教育プログラムの開発・実践のなかでの学び

スチューデント・リーダー・プログラム（SLP）は、3 月から開催されているが、これ以前から学生参画型で企画・運営される各種の取り組みがあり、本プログラムはそうした経験を持つ学生が主体となって運用・運営を行っている。

右の図に示すように、本プログラムにおいては、学生は「学生の声」の提供者（情報

提供者）である以上に、企画・運営を行う「行為者」である。また、学生を学びの「専門家」、あるいは建設的な対話の「パートナー」と捉え（Alaniska & Eriksson, 2006）、彼ら、彼女らの「参画」（林 2002）を得ることで、「与えられた枠組みを越える学習態度」（溝上 2010）（溝上・松下 2014）が引き出されることが期待できる。



3. 成果と考察

これまで、3 回実施してきたが第 2 回開催時に行ったアンケート結果によれば、能動的な学びについて、参加者 10 名のうち 6 人が「とてもできた」、3 名が「できた」と答えている。また自由記述では「グループワークを中心にした授業で本当に白熱しました。」「色々な人の発言を聞く機会が多く設けられていたので大変良かったです。」との肯定的な評価を得ることができた。

まずは、アンケートの他に正課外教育プログラムの効果検証の方法をさらに検討する必要がある。また、現時点では、シラバスを提示し、どのような汎用的能力を育成することをねらいとしているかを示しているが、その提示の仕方を含めたシラバスデザインを工夫することが課題となっている。さらに、正課教育との相乗効果を視野に入れた教育プログラムの開発が挙げられる。学生参画についても「どこまで」「どの程度」といった参加の適切性を判断するための基準などを確立することも必要であると考えられる。

4. 参考文献

- 1) Alaniska, Hanna. & Eriksson, Suvi. (2006) Student Participation in Quality Assurance in Finland. *Student involvement in the Processes of Quality Assurance Agencies*. Helsinki, Finland: European Association for Quality Assurance in Higher Education 2006, Helsinki.
- 2) 林義樹 (2002) 『参画教育と参画理論—人間らしい「学び」と「暮らし」の探求—』
- 3) 溝上慎一 (2010) 『現代千年紀の心理学—適応から自己形成の時代へ—』有斐閣選書
- 4) 溝上慎一・松下佳代 (編) (2014) 『高校・大学から仕事へのトランジション—変容する能力・アイデンティティと教育—』ナカニシヤ出版
- 5) 文部省 (2000) 「大学における学生生活の充実方策について（報告）－学生の立場に立った大学づくりを目指して－」